

平成20年度	施設名(愛称名)	下田市立稲梓基幹集落センター	番号	82
--------	----------	----------------	----	----

平成20年度

施設評価調書

施設の名称.....稲梓基幹集落センター

所管担当課.....産業振興課

平成20年7月

平成20年度	施設名(愛称名)	下田市立稲梓基幹集落センター	番号	82
--------	----------	----------------	----	----

施設の概要

1 施設名 (愛称名)	下田市立稲梓基幹集落センター		2 担当課 担当係	産業振興課 施設整備係				
3 所在地	下田市椎原290番地の1		4 設置年月	平成元年10月5日				
5 総合計画の 位置付け	勢いと活力づくり	新しい第1次産業づくり		農林業				
	施策体系	生産・加工・流通体制の整備		地域資源の発掘				
	主要事業	農林水産物処理加工施設運営事業		地場製品の活用、特産品の開発				
6 設置目的	農業振興、生産環境の向上、生活の合理化及びコミュニティ活動を通じて豊かな地域づくりを図る							
7 設置根拠	下田市立基幹集落センターの設置及び管理に関する条例							
8 施設の概要	施設の概要		敷地面積 m ² 構造 鉄筋コンクリート造 2階建て 1階 321.21 m ² 2階 285.18 m ² 貸出施設 大会議室 227.04 m ² 小会議室 23.26 m ² 和室 52.2 m ² 農産物加工研究室 12 m ² いきがい工作研究室 33.6 m ² その他スペース 管理人施設 45.66 m ² 共用部分 224.17 m ²					
	実施事業の概要							
	料金区分	貸出施設 大会議室・和室・小会議室 農産物加工研究室 いきがい工作研究室						
		主な料金	午前 (9:00~12:00)		午後 (13:00~17:00)		夜間 (18:00~21:00)	
	名称		普通 使用料	入場料等 を徴収して 私用する 場合	普通 使用料	入場料等 を徴収して 私用する 場合	普通 使用料	入場料等 を徴収して 私用する 場合
	大会議室		1,800	3,600	2,400	4,800	1,800	3,600
	和室		900	1,800	1,200	2,400	900	1,800
	小会議室		900	1,800	1,200	2,400	900	1,800
	農産物 加工研究室		900	1,800	1,200	2,400	900	1,800
	生きがい 工作研究室	900	1,800	1,200	2,400	900	1,800	
減免内容	<p>第8条 市長は、特に必要があると認めるときは、別表に定める使用料を減免することができる。</p> <p>2 前項に規定する使用料の減免は、次に掲げるとおりとする。</p> <p>(1) 市の主催で使用するとき、又は国の機関若しくは地方公共団体が市と共催で使用するとき。 全額免除</p> <p>(2) 公共的団体の主催で、第1条に規定する目的のために使用するとき、又は市内の保育所、幼稚園若しくは小・中学校の主催で、園児、児童若しくは生徒の教育目的のために使用するとき。 全額免除</p> <p>(3) 公立小・中学校(市内等の公立小・中学校を除く。)又は公立高等学校の主催で、その目的が教育のために使用するとき。 5割の減額</p> <p>(4) 国の機関又は地方公共団体の主催で、その目的が公益のために使用するとき。 3割の減額</p> <p>(5) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認めるとき。 3割の減額</p>							
	利用料金制度	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>						
施設運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接運営							
	指定管理者制度		指定管理者					
	一部委託		委託内容					
直接従事職員	下田市職員数 委託団体職員数							

平成20年度	施設名(愛称名)	下田市立稲梓基幹集落センター	番号	82
--------	----------	----------------	----	----

9 市内の類似施設	下田市所有					
	民間所有					
10 取得費等の情報 (単位:円)	取得費及び財源内訳		平成19年度末残高			(備考) 減価償却の方法 ・定額法(0.025) ・残存価格1円 ・開始翌年から償却 ・耐用年数 41年 156,000,000× 0.025=3,900,000
	土地取得費		土地残高			
	建物取得費	156,000,000	建物減価償却後残高	82,225,000		
	財源内訳	172,000,000	建物取得費	156,000,000		
	国・県支出金	59,154,000	備品購入費	16,000,000		
	市債	50,000,000	市債残高	0		
	一般財源	49,846,000				
	寄附金等	13,000,000				
物品(*万円以上)		物品減価償却後残高				
11 年間経費等推移 (単位:円)	区 分		H17度決算	H18年度決算	H19年度決算	H20年度予算
	収 入	施設使用料	38,000	31,000	229,190	216,000
		使用電話料	1,160	0	3,590	1,000
	収 入 合 計		39,160	31,000	232,780	217,000
	支 出	1節 報酬	216,000	216,000	216,000	216,000
		7節 賃金	417,850	417,850	417,850	418,000
		11節 需用費(光熱水費)	1,203,055	1,188,020	1,172,709	1,290,000
		11節 需用費(消耗品ほか)	293,514	630,567	390,145	968,000
		12節 役務費	169,612	166,659	172,995	176,000
		13節 委託料	612,719	635,504	622,665	670,000
		14節 借地料	503,577	503,577	511,977	504,000
		14節 TV聴視料	8,400	8,400	0	24,000
	支 出 合 計		3,424,727	3,766,577	3,504,341	4,266,000
	職員人件費					
	減価償却費(建築工事)		3,900,000	3,900,000	3,900,000	3,900,000
	減価償却費(物品)					
	市債利子		0	0	0	0
下田市負担年間総経費		7,324,567	7,666,577	7,404,341	8,166,000	
備 考	人件費は、実額を算出記載(正職員・嘱託職員等の人件費総額)					

平成20年度	施設名(愛称名)	下田市立稲梓基幹集落センター	番号	82
--------	----------	----------------	----	----

12 施設利用 状況等の推移	利 用 状 況	会議室種別	利用種別	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
		大会議室	利用件数	370件	354件	167件	170件
			利用人員	5,345人	4,110人	2,369人	2,400人
		和室	利用件数	96件	101件	71件	70件
			利用人員	1,898人	1,491人	1,031人	1,050人
		小会議室	利用件数	15件	13件	23件	20件
			利用人員	109人	94人	199人	200人
		農産物加工 研究室	利用件数	2件	3件	3件	3件
			利用人員	40人	31人	50人	50人
		いきがい工作 研究室	利用件数	41件	42件	1件	1件
			利用人員	190人	133人	7人	10人
		計	利用件数	524件	513件	265件	264件
			利用人員	7,582人	5,859人	3,707人	3,710人
		施設使用料収入		38,000円	31,000円	229,190円	216,000円
年間維持管理費		3,424,727円	3,766,577円	3,504,341円	4,266,000円		
参考：利用単位当たり市負担額		960円/人	1,303円/人	945円/人	1,150円/人		
算出方法：11欄の「下田市負担年間総経費」÷利用人員							
休館日		12月28日から1月3日まで					
使用時間		午前9時から午後9時まで					
13 利用者 満足度調査	実施の有無	有 <input type="checkbox"/> 無		調査 結果			
	直近の実施時期						
	調査手法						
	調査数						

平成20年度	施設名(愛称名)	下田市立稲梓基幹集落センター	番号	82
--------	----------	----------------	----	----

業績評価

1 目標達成度

目標達成度	区分	単位	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
	利用者数の目標値	人	10,000	10,000	10,000	4,000
	" の実績	人	7,582	5,859	3,707	
	目標達成度	%	75.82	58.59	37.07	
選択した指標	成果指標					
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の代替指標					
指標選択の理由	目標達成度を選定する指標として同指標を選択した理由 1, 農業振興・生産環境の向上 2, 生活の合理化 3, コミュニティ活動 上記を通じ豊かな地域づくりを図る。 となっているが指標で表すことが困難である。よって、大会議室の利用者数を成果指標の代替指標としました。					
指標設定の考え方	区分	指標名	指標の考え方			
	成果指標					
	代替指標	大会議室の利用者数	利用者数の増加はコミュニティ活動の活性化であり、豊かな地域づくりの基と考える			

(参考)

活動指標(施設の目的を達成するための具体的な手段におけるそれぞれの達成度合を把握できる指標)

活動指標		区分	単位	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	
活動指標	目標指標	大会議室の利用者数	目標値	人	8,000	8,000	8,000	8,000
			実績値	人	5,345	4,110	2,369	
			達成度	%	66.81	51.38	29.61	
	目標指標の考え方	コミュニティ活動を図る指標として、大会議室の利用者数を用いる。						
活動指標	目標指標	和室の利用者数	目標値	人	3,000	3,000	3,000	3,000
			実績値	人	1,898	1,491	1,031	
			達成度	%	63.26	49.70	34.37	
	目標指標の考え方	コミュニティ活動を図る指標として、和室の利用者数を用いる。						
活動指標	目標指標	農産物加工研究室の利用者数	目標値	人	300	300	300	300
			実績値	人	40	31	50	
			達成度	%	13.33	12.67	16.67	
	目標指標の考え方	地場産品の活用、コミュニティ活動を図る指標として、農産物加工研究室の利用者数を用いる。						

平成20年度

施設名(愛称名) 下田市立稲梓基幹集落センター

番号 82

2 効率性

効率性	区分	説明	単位	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
	施設の総利用者数等		人	7,582人	5,859人	3,656人	人
	年間経費	施設の事業費・運営費および人件費の合計額	円	3,424,727	3,766,577	3,504,341	4,266,000
	利用単位当たり経費	÷	円/人	452円/人	643円/人	956円/人	円/人
総利用者数等の考え方 施設の総利用総数等について用いた指標について記載してください。	利用者一人当たりにかかる経費を年度間で比較することにより、効率性を計る目安となる。 利用者が増となっても、経費が必要以上にかかってしまえば効率が下がることになる。		備考 コスト評価項目に関して留意事項、補足項目等があれば記載してください。				

その他の指標			区分	単位	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
目標指数	目標指数	使用料収入	目標値	円	100,000	100,000	100,000	216,000
			実績値	円	38,000	31,000	229,190	
			達成度	%	38.00	31.00	229.19	
	目標指数の考え方	使用料収入の増は、効率性の向上に繋がる直接的指標となる。						
目標指数	目標指数	大会議室の稼働率	目標値	円	60,000	60,000	60,000	150,000
			実績値	円	28,000	20,000	145,520	
			達成度	%	46.66	33.33	242.5	
	目標指数の考え方	稼働率を上げることは、効率を高めることに繋がり、指標として適当である。						
目標指数	目標指数		目標値					
			実績値					
			達成度					
	目標指数の考え方							

受益者負担の適正性	区分	説明	単位	H17年度	H18年度	H19年度
	有料部分の年間経費	使用料等を徴収する部分の年間経費	円	3,424,727	3,766,577	3,504,341
	受益者負担額	施設の本来の目的による使用料等の年間総額	円	38,000	31,000	229,190
	受益者負担比率	÷	%	1.1%	0.82%	6.5%
	補正受益者負担額	減免者より正規の料金を徴収したと仮定した場合の受益者負担額	円	1,226,000	870,000	372,200
	補正受益者負担比率	÷	%	35.8%	23.1%	61.6%

平成20年度

施設名(愛称名) 下田市立稲梓基幹集落センター

番号 82

施設の現状分析

判 断 視 点 項 目		施設の状況	
施設方向性の判断視点	施設の設置目的が時代のニーズに適合しているか	設置目的に沿った利用がされているか	概ね設置目的に沿った利用がされている。しかし、認定団体の利用が主な為利用料金が入らない。
		住民の福祉の向上に対し、どのように寄与しているか	地域のコミュニケーションの場所として老若男女が利用している。
		将来に亘り必要な施設として住民の期待を高めていけるか	地域に類似施設が少ないため住民の期待は高い。公民館・体育館との調整を図りたい。
	施設が十分に利用されているか	施設の修繕計画はどうなっているのか	開設19年目となり機器等修繕箇所は増えてきているが、修繕計画は策定していない。
		施設の運営方法と利用者の情報交換はどのようにされてきたのか	利用者の意見徴収等は行っていない。
	施設の管理運営主体が施設の利用目的から判断して適切であるか	同様の施設の設置がされているなど競合していないか	ダンスや卓球については学校体育館と競合している。
		民間においても十分可能な施設なのか	利用形態、利用者数を考慮すると不可能。
	使用料、利用者数、支出額、市負担額が適正であるか	使用料の算定に当たり実費経費と住民福祉の向上の比較はどうか	設置目的から地域のコミュニティ活動を支援する必要があり、減免等の措置が必要である。
		同種施設との比較、近隣施設との比較はどうか	稲梓中学校体育館 年間約700人
		計画上の利用者数と実際の利用者数の違いがどうなっているのか	利用者数は対前年比63.3%となっており、達成度は36.56%となっている。
		施設の耐用年数は何年有るのか	減価償却資産の耐用年数表によると残23年
		施設の今後の維持経費の算定はどうか	通常の維持管理経費 年間経費 約3,500千円 年間歳入 約229千円 今後、建物維持修繕・浄化槽修繕等の増加が予想される。

平成20年度

施設名(愛称名) 下田市立稲梓基幹集落センター

番号 82

施設の現状分析

判 断 視 点 項 目		施設の状況	
行政規模からの判断視点	施設の管理運営に係る経費が財政規模からして適正か	施設の管理運営の経費支出が下田市の行政経営からして妥当なのか	適正な利用者負担及び地元の連携を図り、最小の経費で運営していく努力を今後も続けていく。
		現行の管理運営を今後も継続していくことが適切か	地元との連携を強めて、施設運営を図っていく施設と考える。
	地域的な施設配置のバランスは適正か	旧町村単位における施設配置の見直しはされているのか	稲梓地区における、コミュニティ施設の核として施設運営を行っていく施設と考えている。
	施設の統廃合が可能な施設はないのか	施設統合が出来る施設の組み合わせは有るのか	稲梓地区に設置されている、公民館との棲み分けの議論を高めていく必要がある。将来的には、稲梓地区の公民館の廃止も視野に入れた施設の在り方を考える必要がある。
		老朽化と施設維持の比較から改築廃止をどう考えていくのか	耐用年数は22年残っている。現在、建築の構造体には大規模な補修を必要とする箇所はないため、適正な管理を行い継続使用していく必要がある。
		地域、民間に譲渡できないのか	指定管理者制度による、管理運営をするまでもなく、地元との協調や応援を一層進めていく。
		施設の目的の範囲を拡大することにより統廃合可能にならないか	本施設に近隣類似施設を統合することは可能である。
その他			

平成20年度

施設名（愛称名） 下田市立稲梓基幹集落センター

番号 82

見直しの方策

評価種別		改善・見直しの方策案
市民と行政の役割分担評価	行政関与の妥当性	稲梓地区の、コミュニティ施設として位置的には好適地にあり、地域の中心施設として引き続き行政が関与していく施設である。
	受益者負担の妥当性	平成18年度において、使用料金の見直しを行った。免除団体の利用により、使用料収入がなかったため免除団体の見直しを中心とした料金改定を行った。新料金は、平成19年度からとなります。
	実施主体の妥当性	下田市が運営の主体となることは当然ですが、地域の連携を深めて地域に積極的な関与と責任を持たせた運営を進めていきたい。
	廃止・休止・縮小・外部委託化・民営化などの方向性	当面は、管理責任の一部を地元と与えて運営していく方策を検討したい。なお、館長は地元からお願いしている。
業績評価	利用者数等の目標数値及び利用者向上策など	本施設は現在集会場としての利用が主であるため、利用者数が減少している。新たな利用を図る必要があるが、現状では困難である。
	執行方法の見直しなどの効率化のための目標及び方策	館長、管理人の配置について検討の必要がある。
	受益者負担の現状及び適正化のための方策など	利用料金の改定、認定団体（無料団体）の廃止
査等 ート調 ンケ	市民アンケート調査等の結果	未調査
サービス面等	サービスの迅速性や利便性など	本施設の利用者は施設設置地域の住民が大部分を占めている。本施設には管理人を配置しているため、利用者に対し迅速で利便性に富んだ対応が取れている。
	利用者満足度の観点からのサービス提供の質の改善方法	

平成19年度事業内容及び見直し事項

事業内容	平成19年4月～認定団体（無料団体）の廃止及び料金改定を実施
見直し事項	

平成20年度

施設名(愛称名) 下田市立稲梓基幹集落センター

番号 82

施設懸案事項

No.	懸案事項	改善経費	備考
1	建築物外壁クラック修繕	50万円	定期健診結果
2	浄化槽水中pH-故障	50万円	保守点検結果
3	建築物漏水修繕	100万円	漏電の恐れあり
4	大会議室床改修	100万円	
5	大会議室エアコン修繕	28万円	4台中3台は稼働中
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

今後の方向性

今後の方向性	<p>充実</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 効率化等による見直し</p> <p>現状のまま継続等</p> <p>縮小等による見直し</p> <p>統廃合を進める</p>	<p>(具体的な内容)</p> <p>平成19年度において、使用料の見直しを行った。しかし、免除団体として利用していた団体の利用が減少したため、利用者数は対前年比63.3%となり、使用料は施設管理運営費の6.5%であった。今後管理運営費の縮減と使用料の増加を図る必要がある。利用者へのサービスの利便性や迅速性の低下にならなければ、館長、管理人の配置について検討する必要がある。</p>
--------	---	--